

株

50期生

I テーマ設定の理由

夏休み前のある休日、僕はぼんやりテレビを見ていた。テレビの中ではニュースキャスターが小淵政権がどうのこうのと言っていた。次のニュースは株らしい。ニュースキャスターは相変わらず真剣な顔で平均株価がどうのこうのと言っている。「はて、平均株価とはなんだろう？」そうぼんやり思った。新聞に株の情報らしきものが載っているのは知っていたのでそれを見てみた。訳のわからぬ数値と訳のわからぬ単語だけで構成されていた。そして、ふいにわからぬ事だらけのこの株というものに興味を湧いてきたのである。

II 研究方法

- (1) 文献調査 株に関する本、新聞記事などから株とはどんなものなのかを探る。
- (2) 聞き取り調査 元証券マンの叔父に質問する。

III 研究内容

1. 株入門

(1) 株式会社

株を知るにはまず株式会社を知らなければなりません。例えば○×商店のAさんがその商店を会社組織にしたいと思います。その場合、Aさんは株式会社にするのか、有限会社にするのか決める必要があります。株式会社と有限会社との違いは規模の問題で株式会社なら資本金1,000万円、有限会社なら300万円が必要で、仕組みとしてはほとんど同じです。Aさんは株式会社を設立することにしました。

会社を興そうとする人のことを「発起人」といいます。この場合Aさんが発起人ですが、その発起人は「こういう会社を作ろう」と企画し会社の基本規則を定め、自分自身でも、他の人からでもいいのですが資本金1,000万円の払い込みをしてもらい、設立登記をします。これで株式会社の成立です。

株式会社はお金を払い込んだ人たちの出資金を元手にして何か事業を営んで利益を上げ、その利益を出資者で山分けすることを本来の目的にしています。この出資者のことを株主といいます。

さて、株主として会社設立に参加したものの、もしも利益が上がらない時はどうなるのでしょうか。会社に対して出資した人は、会社の業績が悪く借金がかさんだ場合は出資分がもどらなくなりますが、それ以上の会社に関して責任を負わなくてもいいのです。また、株主になったものの、株を他の人に売って投下した資本を回収することも自由です。この行為をスムーズにするために株は有価証券という株にされているのです。

(2) 上場企業

株式会社にしろ有限会社にしろ、出資金を払い込んだ人は株主です。株主は払い込んだ金額に見合う有価証券（つまり株）を所有し、会社の利益配当を受ける権利などを有します。また、所有している株券を誰かに売る自由もあります。

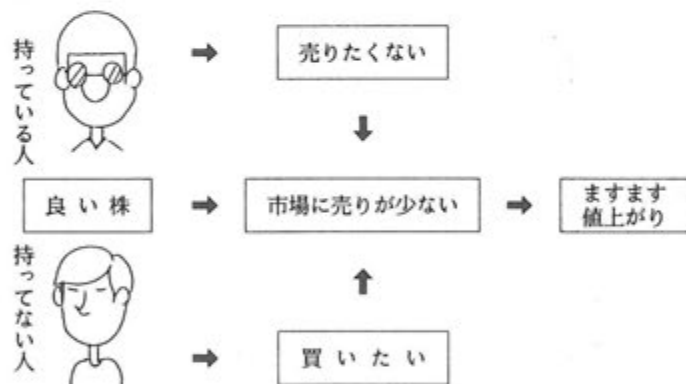
株の「売りたい」「買いたい」という注文が集まる場所は『市場』を形成するわけですが、現在は取引所がその『市場』の機能を担っています。株を売ったり買ったりする株式市場は取引所にあるのです。全国には東京、名古屋、京都、大阪、新潟、札幌、広島、福岡の8ヶ所の証券取引所があり、日本の株式会社の主要なものが上場（取引証券として登録）しています。取引所に上場するには厳しい審査があり、株式会社なら何でも上場されるわけではありません。また、優良企業でも株式の上場を望まない場合は上場されません。また、上場していない企業つまり非上場企業でも日本証券業界が管理している店頭登録企業については、一般の投資家もその株を自由に売買できます。店頭会社の場合は公開企業と呼び上場企業とは区別しています。しかし、広い意味では上場企業も公開企業も株式を公開していることに変わりはありません。

日本には株式会社は約100万社ほどありますが、株式を公開している（一般の投資家も売買できる）企業は約3,000社にすぎません。

では、なぜ上場させたいのでしょうか。上場企業になれば、企業のイメージが高まり、取引でも上場企業という信用度がグンと高くなり、さらに資金調達が可能になるといったメリットがあります。

(3) 株価はどのようにして決まるのか

株価はお客様の売りたい、買いたい注文のバランスで決まります。株券を買いたい人が多ければ株価は上昇し、売りたいという注文が多ければ株価は値下がりします。右の図のように良い株なら当然買いたい人も多



し売りたい人も多いためから株価は上がります。逆に魅力の薄い株だと、市場に売り物が一杯になってしまい、なにかと値下がり傾向になります

(4) 株のメリット

株には大きく3つのメリットというか楽しみがあります。それは、値上がり、配当、優待です。値上がりというのは、先に説明したようにして、自分の持っている株価が上がることです。そして株価が上がった時に売ることによって利益を得られるというわけです。配当というのは、その企業の決算が終わると株主に配られるお金のことです。優待というのは鉄道関係の株を買えば電車のフリーパスをくれたり、米を送ったりしてくれるというようなものです。

2. 情報の利用

(1) 新聞（朝日）の株式欄の見方

東証株式第1部

銘柄	前日	終値	高値	安値	出来高	前日比
水産・紙業	152	152	152	152	152	152
...

朝日新聞より

左のものは朝日新聞の株式欄の一部である。僕がこの株の研究を始めるきっかけとなったものだが難しく、うで実は簡単なものなのである。それぞれ、説明していきたいと思う。

- 東証株式第1部 —— 東京証券取引所第1部に上場されている企業が載っていることを示している。
- 銘柄 —— 東京証券取引所第1部に上場されている企業名のこと。
- 始値 —— その日の最初取引された株価。
- 高値 —— その日取引された最高値のこと。
- 安値 —— その日取引された最安値のこと。
- 終値 —— その日の最後取引された株価。
- 前比 —— その日の前日とその日の終値の差のこと。△は+、▼は-。
- 出来高 —— その日に取引された株の数のこと。単位は1,000株。

以上説明したものだけでも知っていれば大体株価の動きはわかるはずである。

(2) 情報と株価の関係

その会社の株が良い株価かどうかは、その会社についての情報で決まるはずである。どのように情報が株価に影響を与えているのか調べてみた。

▼8月20日の朝刊より



ポケモン売り込め! 全米大作戦

任天堂「N64」はん回策
アニメ放送、ビデオ配布も
「ピカチュウ市」
カンザスに誕生

記事が小さくて読みにくいと思うが内容は、任天堂がポケモンを米国で売り出し、それにとまって様々な宣伝を行うということだ。この記事が8月20日の朝刊に載っているということは、8月19日に情報が発表されたということである。それではこの情報が発表された前後2日の株価を見てもらいたい。

が自分で株を買ってその株を売ったりすること。

Q. なぜ証券会社を辞めたのですか？

A. 一日中金の事ばかり考えているのが嫌になったから。

IV 考察

全体的にまとまりがないまま研究を終わってしまいました。しかし、色々わかったことがあります。一つは株というものは情報に支配されているということ。情報をうまく使うことができれば、おそらく株で失敗するひとはいるのではないのでしょうか。二つ目にやはり株は金なのだということです。叔父への最後の質問の答えがとても印象的です。やはり金がからむと、人間の汚い面が見えてくるようで株におぼれてしまうと、大変なことになりそうだという感じを受けました。今回の研究では世界の株式市場と日本の株式市場のつながりというふうな大きな観点での研究ができなかったのが残念です。やはり今の世の中、生きていくには知識や情報がとても重要だと痛感しました。

V 総括

僕自身こんなに興味をもって取り組めた自由研究は初めてでした。最初株についてまったくといっていいほど知らなかったのがみんなおもしろく、最後まで興味をもって研究できました。研究中にいくつかの会社の数日間の株価の変動を見ましたが、それが本当に情報にもとづいて起こっているのかはわかりません。情報が流れた時、たまたま株価が上がったのかもしれない。とにかく短い期間で調べた数も少ないので、一概にそういうことは言えませんが、情報を収集して損は絶対しないでしょう。最後に僕はこの研究をして株は失敗すると恐いので一生しないでおこうと思いましたが、この研究は僕の人生にとってプラスになったに違いないでしょう。

VI 参考文献

- ・木村佳子著 「株 入門の入門」 明日香出版社
- ・朝日新聞（8月）